

あったか  な 人と心が きづくまち

<穴 内>

## 〇●〇 穴 内 〇●〇

穴内地区は、市中心部から西に位置し、地区内には集落が点在しており、海沿いの道は青くて広い海がパノラマいっぱいひろがり、山沿いにはビニールハウスが、きらめくナスの栽培が盛んな地区です。

新城の東八幡宮、西地の十二所神社から2つの神輿みこしが担がれ、浜で担ぎ上げる奉納祭は、地元の名物です。また、東八幡宮の大桜（エドヒガンサクラ）は、高知県下で3番目（2本のうちもう1本は5番目）に大きく、風雨に負けず力強く300年の時を刻んでいます。

穴内地区社協は、安芸市の中で一番はじめに設立組織化され、ふれあいサロン活動や文化祭など公民館や地区社協の活動により、地域福祉が充実しています。



### ★ 穴内地区の人口・地域福祉資源の概況 ★

世帯数	人口	65歳以上				介護認定者	障害者	子ども
		高齢者数	高齢化率	独居	世帯			
335 世帯	832 人	292 人	35.1 %	22 世帯	21 世帯	50 人	72 人	64 人

社会資源	主な公共施設	公共施設	穴内公民館	集会所	八丁 奥ノ谷 穴内西地 八丁ノ下 穴内立花 穴内大平・新城
		学 校	穴内小学校		
		保育所等	穴内保育所		
	福祉・保健・医療・施設等	—			

### ★ 穴内地区のいいところ ★

- 昔からの地域のつながりがある地区です。
- 小学校の活動に地域の方々の協力が多く得られています。
- 農業や園芸を小学生が地元の方から学んでいます。（良心市・米づくり・野菜づくりなど）
- 青年団が地域のピアガーデンを催したり、正月に獅子舞を出すなど、活発な活動が行われています。
- 地元有志の協力で子ども神輿（みこし）が復活しました。
- 箸拳大会は若い人から高齢者まで世代に関係なく人が集まり、一番盛り上がる行事です。

★ 穴内地区の気になるところ ★



であい～拠点～

- サロン活動など、公民館まで歩いて来れない方の送迎が、全域をカバーできていない。
- 役員の後継者が少ない。（一人がいくつもの役割を兼任している。）

- 地域の行事に積極的に参加してもらいたい。
- 神輿みこしの担ぎ手が少なくなったので、いろんな人に協力してもらいたい。
- 伝統行事は継続していく。
- サロン活動や百歳体操など、気軽に参加してもらいたい。高齢者への声かけ（呼びかけ）が必要なので、工夫をしていきたい。

ふれあい～共生～

- 高齢化が進んでいる。
- 子どもが少ない。

- 穴内は青年団があり、地区のピアガーデンの開催や清掃活動など、積極的に活動してもらっているので、交流をもっと盛んにしていきたい。
- 行政や社協にも、人材の支援をお願いしたい。
- 地域のつながりを維持したい。
- 子どもに福祉の心を育む学習を広めたい。
- 高齢者と小学生や保育所園児との交流を年2、3回行っているので、継続していく。

かたりあい～協働～

- 地区社協活動や公民館活動へ、住民の関心がない。（仕事が忙しい。）
- 元気バスの利用が少ない。国道沿いは元気バスの運行ルートではない。（駅も遠い。）
- 日常生活用品などを買う店が少ない。
- 国道に街灯がない。

- 公民館、地区社協、学校、PTAが連携をとっていききたい。
- 集会所で、集金や募金・行事の役割分担など地区の代表が取り仕切り、会を行っている。
- 学校が積極的に地域の活動に参加してくれ、福祉活動や清掃活動も一緒に行うことができている。

ささえあい～共助～

- 海沿いと山側の広い範囲で、避難対策が難しい。
- 一人暮らしの人とか障害者の人とかの情報が入ってこない。

- 情報を地区社協や公民館を中心に部落長内で共有する。
- 自主防災組織の活動など、若い世代の活動を地域行事にいかす。

★ 穴内地区で取り組んでいくこと ★



1. 出会いのための人づくり・場所づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
障害者・高齢者の集い活動の実施	活動参加者の増加に向けて呼びかけの方法を改善していき、継続実施を行う。 （巡回送迎など取り組む）	→	地域の高齢者の交流の場として定着する。

2. 認め合い・理解し合える意識づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
福祉教育活動の実践	小学校児童、PTAの参加を得て、車椅子体験や高齢者疑似体験など障害者・高齢者の理解を深める学習会を開催する。	集会所単位での福祉学習の機会の確保を行う。	子どもから大人まで地域全体の福祉教育を進める。

3. 暮らしを支える福祉のネットワークづくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
地域性に応じた地区社協機能の強化（地域を支える体制の構築）	地区民運動会など、地区行事に公民館、地区社協、学校、PTA等関係団体が連携をとる。	→	地区活動に住民の参画を得て、各団体が協力して地域の活性化を図る。

4. 地域で安心・安全に暮らしていくための体制づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
見守り・助け合い支援システムの活用	地域の高齢者や障害者の情報の共有化を行う。（民生児童委員を中心とした実態把握）	穴内4ブロックの自主防災活動の連携  家具の転倒防止など今できることにポイントをしぼった学習会を開催する。	見守り・助け合いなど日常の見守りネットワークづくりに取り組む